

さくら

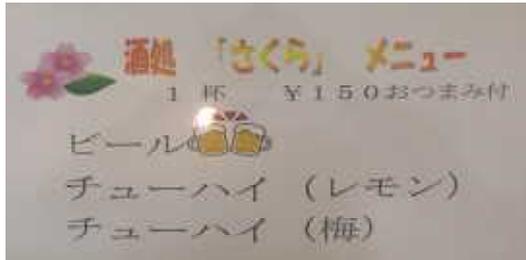
2009 夏

発行
社会福祉法人 東桜会
第 24 号

〒420-0962
静岡市葵区東 527 番地の 1
特別養護老人ホーム 麻機園
TEL 054(247)8739
FAX 054(247)8640

～ 酒処さくら 始めました ～

今年5月から毎月第3火曜日の午後5時より2階さくらんぼにて「酒処さくら」をオープンしました。おつまみ付1杯150円です。お酒が好きな方が集まり、酒を片手におつまみを食べながら楽しいひとときを過ごしています。



皆さまもぜひ一度足を運んでみてください。さくらちゃん（麻機園のアイドル）はじめスタッフ一同、心よりお待ちしております。



さくらちゃん

麻機園 栄養士 三浦温子

『夏まつり』へのお誘い

夏まつり実行委員長

佐藤勝洋

今年も暑い夏が到来しました。東桜会にも「夏まつり」がやって来ます！
ゲームで笑って、おいしい食べ物を味わって、勇ましい太鼓や踊りで盛り上げますよ～
入所者の皆様、ご家族、職員で賑やかに参りましょう！
たくさんの方のご来園をお待ち申し上げます。



東桜会夏祭り日程

開催日	8月8日(土)
時間	16:00～18:00
場所	桜花玄関前、駐車場
ゲーム	福引き・もぐらたたき
食べ物	たい焼き・たこ焼き・かき氷 ところてん・おでん・焼き鳥など
ゲスト	麻機太鼓
介護相談	於：桜花内ヘルパーステーション

新人職員紹介

2009年 春号の続き



選択メニューなど、新しいものを取り入れ、皆様「おいしい」と喜んで頂ける様な南立を立てて行きたいと思っております。よろしくお願ひします。桜花栄養士 岡本香菜



大学を卒業したてのまだまだ未熟な社会人ですが、一日でも早く仕事を覚えて頑張ります。どうぞよろしくお願ひします。桜花寮母 江井健太



ご利用者様に信頼して頂けるように、頑張っていきたいと思いを。
 よろしくお祈いします。

デイサービス認知症型 岡部 淳

新人職員としての抱負

60歳を超え、再任用という制度を使わずに、全くの異業種に転職した事に対して、奇異な感じを抱かれる事と思います。転職を決意した経緯には、一冊の書『ハッピー・バースデー』の存在がありました。書の中で主人公アスカは語ります『人は変わる』のだと、『そのために勉強をしている』のだと。読むうちに「人に喜ばれる仕事を」という思いが増幅され、「優しさ」「思いやり」を主とした看護・介護の道に進む事を選択しました。この道はおそらく生易しいものではないと思います。しかし、いずれ人は老い、同じような道を歩むものが言う「ありがとう」という言葉の重さは、自分が言わなければならない言葉のように感じるこの頃です。私は「挨拶」「優しさ」「思いやり」をモットーにこの仕事を続けていきたいと思っています。よろしくご指導願います。



看護師 大槻敏夫

俳句同好会

今年の冬から活動を始めました。と言いましても、活動日、資格、五・七・五、季語の決まりもなく、また、川柳、俳句、詩など何でもありです。当然決まった会員もいません。頑張らない事をモットーにゆるーい活動をしています。一句詠んだ時から会員になります。思わずクスッと笑ってしまう句、若い頃か想像される句、「オッ!」と感心する句など、その方の人柄が表れた作品が多くあります。詠んだ句は、現在2階廊下から食堂にかけて掲示してありますので、ご覧になって皆さんも是非一句詠んでみませんか?

右は作品の一部です。

副療母長 坂本 晃

寂しさに うつつに過す 癒しの茶
 5月半ばの居室変更後、同室で仲の良かった方を思い、少し寂しい気持ちでいたところ、職員さんが、おいしいお茶を入れてくれた時の気持ちです。
 胸を張り 安西小と 告げる孫
 お孫さんが入学の報告を兼ね、面会に来たときの句です。温かい気持ちになります。
 梅雨晴れ間 雲を払いて 文珠岳
 ショートステイの方の作品です。園の窓から見えた裏山の景色です。雨上りつて嬉しい気持ちになりますね。

『予期せぬ出来事』 豊泉有美子
 麻機園で働き始めて四年目に入りました。私が毎朝仕事に出掛ける時いつも思っている事は、入所者の皆さんが一日を楽しく無事に過せるようお手伝いをしたい、という事です。
 忘れられない、一番強く印象に残っている出来事は、働き始めて二年目にありました。私が担当していた食が細く高齢の女性に、おやつを介助していた時の事です。いつも通りベッド上で座位を保ち、スプーンで少しづつプリンを介助していたのですが、急に口が開かなくなり、声かけにも反応がなく、顔が青くなってきたしまいました。慌てて看護師が来るまで詰りを取り除こうとしましたがうまく行かず、パニック状態になってしまいました。どうしていいのか分からず、早く助けなければという気持ちばかりが先に立つて困っていた時、看護師によって喉に支えていたプリンを取ってもらいました。その方の顔色が徐々に良くなり、普段の状態に戻った時、安心したのと同時に介護する事が恐ろしく感じた出来事でした。
 いつも通りにしていた介護でも、入所者の体調の変化に気を配っていないと大きな事故に繋がるといふ事を実感した、私にとっては辛い体験でした。多くの入所者が高齢で、普段通りに生活しているように見えても、体調の悪い時もあれば、気分が落ちている事もあります。少しでも相手の気持ちを察してあげられたらと思います。
 何事もなく一日が無事に終わる事の喜び、そして、入所者との生活の中での会話を通して、心と心の触れ合いを感じた時、この仕事をしていて良かったと思える瞬間です。これから入所者との触れ合いを大切にして、信頼してもらえる職員になれるよう頑張りたいです。